

# News Release

発行／埼玉縣信用金庫 総合企画部 TEL 048-526-1111(代) <http://www.saishin.co.jp>

2019年5月21日

## 株式会社日本格付研究所より「A-」の格付けを取得

埼玉縣信用金庫（本店：熊谷市 理事長：橋本 義昭）は、2019年5月16日付で、株式会社日本格付研究所（JCR）より上位ランクに位置付けられる「A-」（シングルA マイナス）の格付けを取得いたしました。当金庫の営業基盤である埼玉県で一定の利益水準を保持し、不良債権比率（金融再生法開示債権比率）も低く抑えられていることなどが要因です。

### <格付の概要>

格付機関	株式会社日本格付研究所（JCR）
格付対象	『長期発行体格付』 ※債務者（発行体）の債務全体を包括的に捉え、その債務履行能力を評価したもの。
格付の据置	『A-』（シングルA マイナス） ※JCRの長期発行体格付は、「AAA」、「AA」、「A」、「BBB」、「BB」、「B」、「CCC」、「CC」、「C」、「LD」、「D」の11等級に区分され、「A」は上から3番目となります。 「A」の意味は「債務履行の確実性は高い」とされています。 また、「AA」から「B」までの格付記号には同一等級内での相対的な位置を示す符号として、プラス（+）もしくはマイナス（-）の符号による区分があります。
取得日	2019年5月16日（木）
主な格付事由	（1）埼玉県内全域に店舗網を持ち、貸出シェアは県内3位。地元で強固な事業基盤を有している。 （2）貸出金利回りを意識した営業戦略への転換、コスト削減の取組みにより業務純益の更なる落込み懸念は小さいとみている。 （3）不良債権比率（金融再生法開示債権比率）は2018年9月末で1.6%と信金業界平均を大幅に下回る。 （4）有価証券運用の金利リスク量は大きな水準にはない。

## <JCRによる格付事由>

- (1) 埼玉県熊谷市に本店を置く資金量約 2.7 兆円の信用金庫。埼玉県は東京への通勤・通学の便が良いことから人口が増加し住宅の取得ニーズが高いことや、多様な産業基盤などを背景に預貸金の市場規模は大きく、拡大基調にある。その中で、当金庫は県内全域に支店網を持ち、貸出シェアは県内 3 位と一定のプレゼンスを有している。地元での強固な事業基盤や良質な貸出資産などが格付を支えている一方、リスクアセットの増加に見合う利益を確保できるかが課題である。
- (2) 貸出金利回りの低下によりコア業務純益（投資信託解約益を除く）は減益傾向が続いてきたが、19 年 3 月期上半期のコア業務純益は前年同期並みの 28 億円と下げ止まった。今後は基幹システムの更改に伴う経費の増加が圧迫要因となるが、貸出金残高の伸びをやや抑え、貸出金利回りを意識する方針に転換したこと、店舗内店舗化や人事制度の再構築などのコスト削減により、コア業務純益（同）が大きく落ち込む懸念は小さいと考える。今後はソリューション提案の強化により役務収益を伸ばせるか注目している。
- (3) 金融再生法開示債権比率は 18 年 9 月末で 1.6%（部分直接償却は未実施）と、信金業界平均を大幅に下回る水準にある。19 年 3 月期上半期は一部特定先のランクダウンにより与信費用が増加したものの、小口分散が図られていることに加え、特定の債務者に対し保守的な引当がなされており、大口不芳先の未保全額も少ないことから、当面は落ち着いた水準で推移すると JCR ではみている。
- (4) 有価証券運用では、国内金利リスク（超長期）、海外金利リスク、クレジットリスクなどをとり、国債・金融債からリスク資産へのリバランスを図ってきた。金利リスク量は資本対比でみて大きな水準にはない。投資信託残高が大きく増加しているものの大半が債券型であり、株系資産にかかわる価格変動リスクは大きくない。含み損の大きい投資信託の損切りを行う一方で、バッファーとなる有価証券の評価益は増加している。
- (5) コア資本比率はリスクアセットの増加により低下傾向にあり、18 年 9 月末で 8.34%（単体）と前年同月末比 0.34%ポイント低下した。今後も貸出金を中心に引き続きリスクアセットは増えていくとみられ、相応のコア資本比率を維持できるか注視していく。

本件のお問合せ

埼玉県信用金庫 総合企画部：山田

電話：048—526—1111 URL：<http://www.saishin.co.jp>